第54回 全日本登山体育大会
宮城大会 開催要項

「とどけよう 登山の力を東北へ！」
（東日本大震災復興支援）

■期 日　平成27年10月9日㈮～11日㈰

■会 場　栗原市、大崎市、一関市、湯沢市、東成瀬村

『秀麗秋彩』（栗駒山）：佐藤　貢 氏（写真家）

主　催／公益社団法人 日本山岳協会

主　管／宮城県山岳連盟

後　援／文部科学省，環境省，（公財）日本体育協会，宮城県，岩手県，秋田県，仙台市，大崎市，栗原市，一関市，湯沢市，東成瀬村，宮城県教育委員会，岩手県教育委員会，秋田県教育委員会，（公財）宮城県体育協会，（公財）岩手県体育協会，（公財）秋田県体育協会，（公社）宮城県観光連盟，（公財）岩手県観光協会，（一社）秋田県観光連盟，（一社）栗原市観光物産協会，栗駒山観光協会，栗駒山麓ジオパーク推進協議会，ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議，宮城県山岳遭難防止対策協議会，NHK仙台放送局，河北新報社

温泉と錦秋の栗駒山へようこそ

宮城県山岳連盟
会長　相澤岩男

第５４回全日本登山体育大会は，平成２７年１０月９日から１１日まで３日間にわたり東北の宮城県の栗駒山にて開催されます。

栗駒山は東北６県のうち宮城県，岩手県，秋田県の３県にまたがる山で標高１６２６m，奥羽山脈から東側に飛び出したような位置にある独立した山であります。標高はあまり高くはありませんが日本二百名山や花の百名山にも選ばれており，自然が豊かな山です。特に秋の紅葉は日本一ともいわれるほど見事な美しさです。この山域は開発行為が少なく大変自然が守られており，秋の紅葉と温泉の多さが特徴であります。

今回お泊まり戴きます宿は２日とも温泉でありますが，２日目の宿泊は全国的に有名な鳴子温泉です。日本にある１１種類の泉質のうち，９種類の泉質が鳴子温泉郷にあります。大会に参加して戴いた全国の山仲間の皆様に，山歩きで疲れた体を鳴子温泉で十分に癒して戴きたいと存じます。また，この地域は全国一を誇ります米の産地ですので，大変美味しい日本酒とご飯を賞味されてお帰り戴きたいと存じます。

さて，平成２３年３月１１日午後２時４６分，宮城県沖を震源とするマグニチュード９という観測史上最大の地震が発生し，**最大震度は宮城県栗原市で震度７**を観測しました。この地震で波高10m以上の巨大な津波が発生し，東北・関東地方の太平洋沿岸部では壊滅的な被害が発生しました。**(東日本大震災)**

また，平成２０年６月１４日午前８時４３分，岩手県内陸南部でマグニチュード7.2の大地震が発生し，**最大震度は宮城県栗原市**と岩手県奥州市で**震度６強**を観測しました。この地震は人的被害や建物被害だけでなく，栗駒山南側の宮城県側では大規模土砂災害が多発しました。そのため山麓域では多くの道路が寸断され，栗駒山では数多くの登山客が帰路を絶たれました。**(岩手・宮城内陸地震)**

本大会は，これまでの大会と違った意味合いがあります。大会スローガンの「とどけよう　登山の力を東北へ！」は，被災地支援の意味が込められています。全国の山仲間が被災地に対して二つの大災害からの復旧・復興を支援し，その一方で，被災地が復旧・復興に取り組んでいる姿を全国の山仲間に見ていただくとともに，全国から寄せられた支援・協力への感謝の気持ちが込められております。

復旧・復興に全力で取り組んでいる栗原市は，本大会を全国からの支援に感謝の意を表す場として，また栗原市政１０周年記念事業のひとつとして全面的に協力してくださっており，開会式会場の提供，送迎バスの運行，歓迎行事（民俗芸能），山行後の接待などを予定しております。

地元の期待に応えるためにも，一人でも多くの山仲間が被災地の現状と復旧・復興の様子を実感する場としてのオプショナルツアーに参加していただきたいと念願しております。

今大会は，全国の山仲間が祝日「山の日」制定を祝い，栗駒山の自然に触れながら自然の恵みに感謝するとともに，大災害からの復旧・復興への誓いを新たにし，安全登山の啓発，生涯スポーツとしての登山の楽しさや自然保護の大切さなどを共有しあう大会にしたいと思います。

主管を致します宮城県山岳連盟と地元の皆さん，関係者方々全員で出来る限りのおもてなしをしたいと存じます。どうか老若男女の皆様をお誘い戴きましてこの大会に参加されることをお願いし，皆様を心よりお待ち致しております。

—「山の日」祝日制定記念—

第54回全日本登山体育大会　宮城大会　開催要項

大会スローガン　「とどけよう　登山の力を東北へ！」（東日本大震災復興支援）

大会目的　「山の日」祝日化のプレ・イベントとして全国の山仲間が集い，栗駒山の自然にふれあい，山の恵みに感謝する。仲間との登山を通じて，登山技術の向上と相互の親睦・交流を図る。また，自然保護と地球温暖化について検証しながら美しい東北の山岳自然を守り続けるとともに東日本大震災復興支援の大会にしたい。

1．開催期日　平成２７年１０月９日（金）～１１日（日）　２泊３日

※オプショナルツアー参加後に個人山行や旅行ができるように，日程を設定いたしました。

2．主　催　公益社団法人　日本山岳協会

3．主　管　宮城県山岳連盟

4．後　援　文部科学省，環境省，（公財）日本体育協会，宮城県，岩手県，秋田県，仙台市，大崎市，栗原市，一関市，湯沢市，東成瀬村，宮城県教育委員会，岩手県教育委員会，秋田県教育委員会，（公財）宮城県体育協会，（公財）岩手県体育協会，（公財）秋田県体育協会，（公社）宮城県観光連盟，（公財）岩手県観光協会，（一社）秋田県観光連盟，（一社）栗原市観光物産協会，栗駒山観光協会，栗駒山麓ジオパーク推進協議会，ゆっくりひとめぐり栗駒山麓連絡会議，宮城県山岳遭難防止対策協議会，ＮＨＫ仙台放送局，河北新報社

5．募集人員　２００名

6．開催場所　栗原市，大崎市，一関市，湯沢市，東成瀬村

7．会　場　受付・開会式　『栗原市みちのく伝創館』
宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎松木田７９　電話０２２８－４５－５０００
交歓会・閉会式　『鳴子ホテル』
宮城県大崎市鳴子温泉湯元３６　電話０２２９－８３－２００１

8．日　程

◆第１日目　１０月　９　日（金）

１２：００～１２：５０　受　付　<u>※くりこま高原駅から開会式場まで無料送迎バスあり。（申込書に記入を。11:20, 12:10 発）</u>

１３：００～１３：３０　開会

１３：４５～１５：１５　講演会　仮題『二度の大災害と復旧・復興』栗原市長／参与会

１５：３０～１５：４０　諸連絡
１６：００～　宿舎へバス移動（到着後夕食，入浴）

◆第２日目　１０月１０日（土）

５：００～　８：３０　登山口へのバス移動開始時刻（コースにより異なる）
５：１５～　９：１５　登山開始時刻（コース別登山行動）
１４：００～１４：３０　いわかがみ平到着，登山終了
①ハイルザーム栗駒で歓迎接待
②地震による地滑り地経由鳴子温泉（バス）
１８：３０～２１：３０　交歓会

◆第３日目　１０月１１日（月）

７：００～　朝　食
８：４５～　９：３０　閉会式（終了後，解散）
※８：３０～　オプショナルツアー出発（希望者）
集合場所　ホテル玄関　※くりこま高原駅解散

９．登山コース（６コース）　★…難易度　◎…朝食は弁当

コース名	行　程	難　易　度	募集人数	10/9 宿舎
Aコース **表掛コース**	登山口～御沢出合～石飛び八里～大日沢出合～御室～お花畑～分岐（天狗平）～山頂	★★★★★ 歩行距離　約７km 歩行時間　約６時間 上級者向き	２０名	くりこま荘 （朝食◎）
Bコース **東栗駒コース**	登山口～新湯沢～東栗駒山～裏掛コース分岐～中央コース分岐～山頂	★★ 歩行距離　約 3.5 km 歩行時間　約２時間 初級者向き	４５名	ハイルザーム 栗駒
Cコース **湯浜コース**	湯浜温泉～古道の森分岐～虚空蔵山～大地森分岐～分岐（天狗平）～山頂	★★★★ 歩行距離　約 8.5 km 歩行時間　約５時間 中級者向き	２５名	湯浜温泉 三浦旅館 （朝食◎）
Dコース **裏掛コース**	コース入口駐車場～登山口～新湯沢～天狗の碁盤石～磐井川源流～東栗駒分岐～中央コース分岐～山頂	★★★ 歩行距離　約６km 歩行時間 約 3.5 時間 中級者向き	３５名	栗駒山麓 さくらの湯
Eコース **須川コース**	須川温泉～名残ヶ原～苔花台～昭和湖～分岐（天狗平）～山頂	★ 歩行距離　約４km 歩行時間　約２時間 初級者向き	４０名	ハイルザーム 栗駒
Fコース **天馬尾根コース**	国道 342 号秣岳登山口～分岐～秣岳～白銀湿原～岩頭～分岐（天狗平）～山頂	★★★★ 歩行距離　約６km 歩行時間　約４時間 中級者向き	３５名	ハイルザーム 栗駒 （朝食◎）

※山頂からの下山は，全コースとも中央コースとする。（歩行距離約３km，歩行時間約 1.2 時間）

10. 参加資格

①都道府県山岳連盟（協会）より推薦を受けた方。
②公益社団法人日本山岳協会の役員，参与および賛助会員。
③地域の登山普及を図るため，主催者が特に認めた方。
◆参加者は，できるだけ「山岳共済会山岳遭難・捜索保険」加入してください。
※保険の問合わせ先：０３－５９５８－３３９６（日本山岳協会山岳共済事務センター）

11. 登山の留意事項

①参加者は，各自で大会中の飲み物，行動食，非常食を準備してください。
②大会第２日目（１０月１０日）の昼食は，おにぎり弁当（お茶 500ml 付き）を配布します。
③Ａコースは沢の中を歩きますので，沢靴または替え靴，靴下を持参してください。
④コース中にトイレはありませんので，携帯トイレを持参してください。
⑤ゴミの持ち帰り等，自然保護に努めてください。
⑥東北の山は冬に近づいている時期です。一般装備だけでなく，天候の急変に備えてください。
⑦栗駒山も火山です。噴火など万一の場合に備え，ヘルメットなどの安全装備を持参願います。
⑧火山活動の恐れがあるときは，登山内容などの変更がある場合があります。
※自然保護への配慮

大会を実施する区域は，栗駒国定公園の区域内です。このため，オーバーユースとならないよう各コースの参加人員の分散を図り，ローインパクトを心掛けております。栗駒山系の自然を末永く未来に引き継ぐためにご協力をお願いします。

この大会を通じ，自然保護の大切さを再認識する大会となるよう参加者全員で努力しましょう。また，多くの登山者も訪れています。他の登山者から批判を受けることのないよう，各自で自然保護やマナーに心掛けてください。

12. 参加申込み

（１）申込方法

①参加者は，巻末の「参加申込書」に必要事項を記入し，記載責任者押印の上，「参加費振込みの控え」またはコピーを添えて，下記あてに送付するかＦＡＸしてください。

名鉄観光サービス㈱仙台支店
〒980-0021　宮城県仙台市青葉区中央 4-10-3（住友生命仙台ビル６階）
ＴＥＬ　０２２－２２７－３６１１　　ＦＡＸ　０２２－２６１－４６２３
担当　植松・遊佐・村上

②記載責任者は，「参加申込書」のコピーを所属山岳連盟（協会）に提出してください。

（２）参加費の納入先

指定金融機関：みずほ銀行　第五集中支店
口 座 番 号 ：（普通）　０１７０６７１
口座 名義人 ：メイテツカンコウサービス（カ

≪振込みの際の注意≫

①振込み手数料は参加者負担とさせていただきますのでご了承願います。

②振込み金額が金融機関により設定されていますので，事前にご利用金融機関にて確認されることをお薦めいたします。

③現金書留での送金も可能です。名鉄観光サービス㈱仙台支店へ「全日本登山体育大会係」と明記の上，お送りください。

名鉄観光サービス㈱仙台支店
〒980-0021　宮城県仙台市青葉区中央 4-10-3（住友生命仙台ビル６階）
「全日本登山体育大会係」　担当　植松・遊佐・村上
ＴＥＬ　０２２－２２７－３６１１　　ＦＡＸ　０２２－２６１－４６２３

（３）申込期間　　平成２７年７月１日（水）～平成２７年８月７日（金）

※定員になり次第締め切ります。（定員２００名）

（４）大会参加費　３３，０００円（宿泊費，全食費，大会中の輸送費・記念品・保険料を含む）

（５）希望コースについては，人員により調整することがあります。必ず第３希望まで記入してください。申し込み締め切り後，８月２０日（木）頃までに決定内容の通知を差し上げます。

（６）参加費の返却について

特別な事情により大会への参加が不可能になった場合，次の取り扱いをします。なお，返金精算は大会終了後となります。

①参加費の納入後，平成２７年９月２８日（月）までに参加取消の連絡があった場合は，参加費の９０％を返却します。（連絡先：名鉄観光サービス㈱仙台支店）

②前記①以外の取消については，返却いたしません。

13. 事務連絡事項

（１）大会並びに山域に関する問い合わせは大会事務局へ

宮城県山岳連盟　全日本登山体育大会事務局

〒982-0252　仙台市太白区茂庭台 1-17-16　齋藤英次方　TEL022-281-4091

（２）飛行機，ＪＲ，大会終了後のオプショナルツアーの問い合わせ・申込みは下記まで。

名鉄観光サービス㈱仙台支店　ＴＥＬ０２２－２２７－３６１１　担当　植松・遊佐・村上

（３）岳連（協会）旗は，９月３０日（水）までに，大会事務局へ送付してください。

送付先　宮城県山岳連盟　全日本登山体育大会事務局

〒982-0252　仙台市太白区茂庭台 1-17-16　齋藤英次方　TEL022-281-4091

（４）「参加申込書」，「参加費等振込み明細書」の様式は，日本山岳協会のホームページからダウンロードできます。

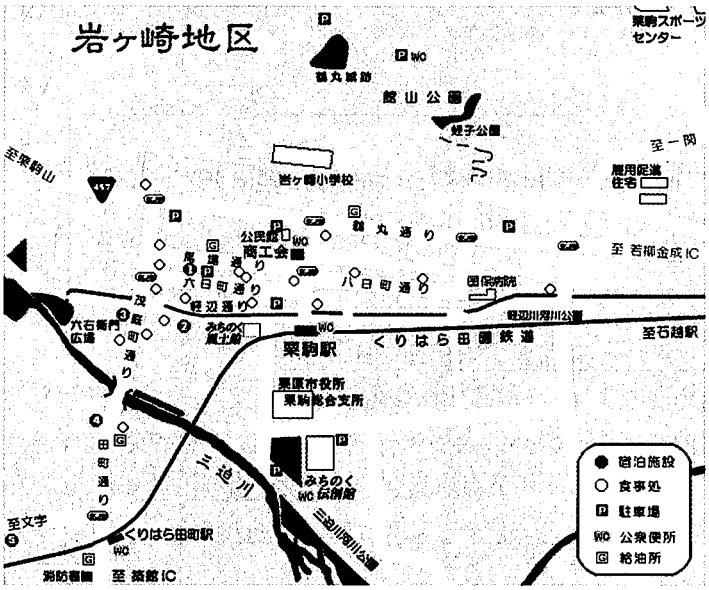
14. 関係連絡先

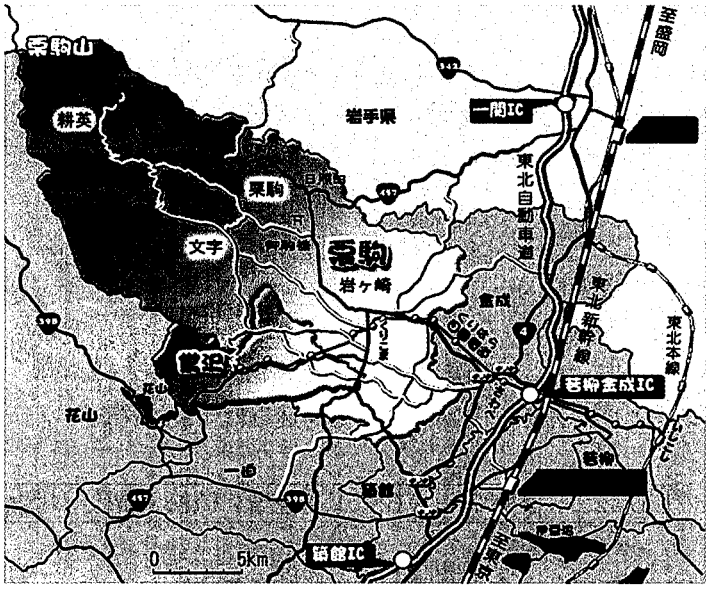
・宮城県警察若柳警察署　栗原市若柳字河北原畑 4-4　TEL0228-32-3111

・宮城県警察築館警察署　栗原市築館字留場中田 201-2　TEL0228-22-1101

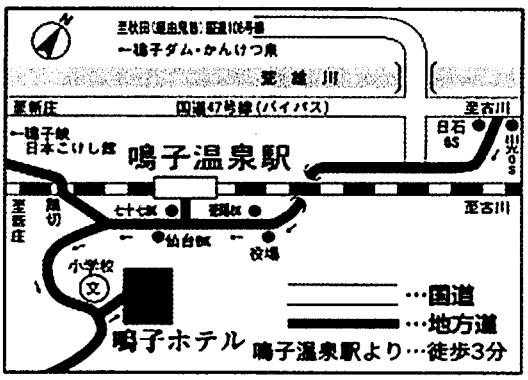
・栗原市立栗駒病院　栗原市栗駒岩ケ崎松木田 10-1　TEL0228-45-2211

受付・開会式・講演会　会場案内





※上記２枚の地図提供：栗駒鶯沢商工会（H27.6.1）



栗原市みちのく伝創館

宮城県栗原市栗駒岩ケ崎松木田７９
電話０２２８－４５－５０００

○自家用車（開会式会場まで）

・東北自動車道
　若柳金成ＩＣから約 15 分
・くりこま高原駅から　約 25 分

※自家用車は大会終了時まで「みちのく伝創館」に駐車。（宿泊地，登山口，下山口が変わるため。駐車は自己責任）

・大会終了時までバスによる計画輸送。

※大会終了時 or オプショナルツアー終了時，バスで「みちのく伝創館」まで送迎。

○ＪＲ（新幹線くりこま高原駅まで）

・東京駅から　約２時間 30 分
・仙台駅から　約 30 分

※くりこま高原駅から「みちのく伝創館」まで無料送迎バス（11:20, 12：10 発）があります。利用者は申込書に記入のこと。

※食堂は，駅周辺または開会式場周辺を利用してください。

○航空機（仙台空港発着）

・全国からの定期便は，１日約５０便
・仙台空港アクセス線でＪＲ仙台駅まで約 25 分

○高速バス（くりこま高原駅まで）

・ＪＲ仙台駅からくりこま高原駅まで午前中３便

交流会・閉会式　会場案内

鳴子ホテル

〒989-6823
大崎市鳴子温泉字湯元 36
TEL 0229-83-2001（代表）

栗　駒　山

Ⅰ　地質

栗駒火山は東北地方のほぼ中央部，岩手･秋田･宮城県境付近にまたがる新生代第四紀（およそ 260 万年前～現在）に活動記録を残す成層火山である。栗駒山を挟んで北から八甲田山・岩手山，南側には蔵王山・安達太良山などの活火山が直線状に分布し，その西側には岩木山・鳥海山・月山などの活火山が分布する。そのため，この南北方向の直線的かつ帯状になる分布は第四紀火山フロントと呼ばれている。

栗駒火山は東西約 12km，南北約 10km の範囲に複数の山体が分布する。最高峰の栗駒山（1626m）を中心に，東方に東栗駒山（1434m）･笊森（1355m），西方に御駒山（1573m）･秣岳（1424m），南西方に虚空蔵山（1409m）の諸峰を配し，南方には大地森（1155m）・秣森（779m）・揚石山（869m）などが北北西－南南東方向に配列する。また，栗駒山山頂北西方向には 剣岳（1404m）が存在する。

栗駒山山頂の北側には北西方向に開口する馬蹄形のカルデラと，その延長上に延びる緩傾斜の岩屑なだれ堆積物による斜面がみられる。また栗駒山山頂の南側斜面や東栗駒山西方にも馬蹄形カルデラ状の地形があり，その北側に位置する剣岳北側と北西側には地すべり地形が存在する。剣岳南東側には 1944 年に噴火した昭和湖の火口や，小規模な水蒸気爆発の痕跡と思われる凹地や池が多数分布している。

Ⅱ　栗駒山概要

栗駒山は東北地方のほぼ中央に位置し，秋田では大日岳，岩手では須川岳などとも呼ばれ，古くから山岳信仰の山である。また，日本二百名山の一つでもあり，初夏から夏にかけてのお花畑と秋の紅葉が特に有名である。栗駒山の名前は，初夏の山頂西側に馬の雪形が現れることに由来する。

また，栗駒山は，「花の百名山」にも選定されている有名な山である。山肌にブナの原生林や世界谷地などの湿原が広がり，山頂付近には 150 種に及ぶ高山植物が群生している。9 月であれば美しい紫色を誇るエゾオヤマリンドウ，小さいながらも黄色く輝くように咲き誇るアキノキリンソウ，ニリンソウを彷彿とさせるウメバチソウ，ぱらりと散らばる雪を思い起こさせるミヤマトウキ等，登山者の疲れをそっと癒してくれる高山植物の存在も見逃せない。

そして，紅葉の美しさは筆舌に尽くし難いものがあり，紅葉のピーク時には「いわかがみ平」に向かう県道 42 号線（築館栗駒公園線）が大渋滞し，週末にはマイカー規制が敷かれるほどである。まさに宮城県が全国に誇る紅葉スポットと言っても過言ではなく，特に山頂から南側を見下ろす紅葉の景色は絶景であり，多くの登山者がその美しさに息を呑む。

山頂からは３６０度のパラノラマを堪能でき，東に太平洋，南に船形山（山形では御所山）･蔵王連峰・朝日連峰・月山，西には東北地方の最高峰鳥海山も遠望できる。また，北には焼石連峰，秋田駒ヶ岳，

岩手山を望み，その東には早池峰山も遠望できる。

宮城県側で初心者向きのルートは，いわかがみ平から山頂への最短且つ最もポピュラーな中央コース（3.2km）と，同じいわかがみ平を起点に東栗駒山を経由する東栗駒コース（3.9km）の二つである。

栗駒山　登山コースガイド

（A）表掛コース

登山口～＜90分＞～御沢～＜60分＞～大日沢出合～＜30分＞～お花畑～＜60分＞～御室～＜50分＞～須川・秣岳コース分岐（天狗平）～＜25分＞～山頂（約7km，約6時間）

栗駒山で唯一の沢コース。歩きがいのあるロングコースである。夏であれば，最後まで雪の残る御室にお花畑が広がる，非常に変化に富んだコースである。

登山口は「栗駒いこいの村」跡地のすぐ下で，南側山腹のブナ林や植林地の中をトラバースしながら歩き始める。途中のブナ林は巨木も見られ，とても癒される。いくつかの小沢を越えると，明るく開けた御沢に至る。

御沢から本格的な登りとなる。やや不明瞭ではあるが，赤いペンキ，赤布を頼りに右に左に渡渉を何度も繰り返しながら進む。石飛八里と呼ばれている沢を滑らないように（登山靴が水没しないように）注意しながら一時間半ほど登ると，大日沢の出合いに着く。大日沢を右に見て左の沢へルートを取ると，やや傾斜がきついゴーロ地帯となる。ハシゴ滝を巻くルートには，ロープが付けられている。落石に注意しよう。滝を越すと地形は一旦平坦となり，見上げると御室の黒い岩稜がそびえ立つ。小さくなった沢を，もう一登り頑張ろう。

大地森からの道を合わせた御室の一帯は秋には草紅葉が広がるが，残雪が消えた後に咲き始める高山植物の花々が本来の見どころであろう。やや不明瞭なきつい登りを頑張ると，やがて駒形根神社の奥ノ院の小さな祠が鎮座する御室に到着する。栗駒本峰や御沢が一望できる素晴らしいロケーション。ここが，登ってきた御沢の源流であることを主張するように，こんこんと水が流れ出している。

ここから虚空蔵山方面へ岩稜帯を巻くように迂回するが，急な斜面のトラバースなので滑らないように注意。少し進むと，ハイマツ，ナナカマドなどの灌木帯で湯浜コースと合流し，見事な紅葉を見せてくれるだろう。尾根道を進み，須川コースとの分岐点に至ると，今までとは別世界のにぎわいとなる。

山頂までのわずかな最後の登りは，快適な展望を約束してくれるはずなので，疲れも忘れてあっという間に山頂に着く。秋の紅葉時，特にニュースで取り上げられた後は大勢の登山客や紅葉見物客で，東北の山では考えられないような超過密な人口密度となるので，山頂ではくれぐれも迷子にならないようにご注意を……。

（B）東栗駒コース

登山口～＜50 分＞～新湯沢～＜25 分＞～東栗駒山～＜25 分＞～裏掛コース分岐～＜15 分＞～中央コース分岐～＜７分＞山頂（約 4km，約 2 時間 5 分）

登山口は広い駐車場と避難小屋（レストハウス），そして水洗トイレが整備されている。諸準備を終えて準備運動をして十分に身体をほぐしてから入山しよう。

東栗駒コースは看板の脇からヤブに入っていくようなスタートであるが，樹林帯の中の緩やかな登りを進んで行く。溝状の道は水たまりがあちこちに点在し歩きにくく，途中大きな段差が存在する箇所もあるので，足元に注意したい。50 分ほど登って行くと新湯沢の徒渉点が見えてくる。

東栗駒コースは沢の徒渉が醍醐味でもあり，滑（なめ）が続いている様子が見て取れる。下流を見下ろすと火山由来の大きな岩がゴロゴロしている様子が目に飛び込む。栗駒山が火山活動でもたらされたことを感じさせるところでもあるが，この新湯沢は平成 20 年（2008 年）6 月 14 日に発生した岩手・宮城内陸地震で土石流が発生した沢である。この沢の下流に位置していた駒ノ湯温泉が土石流で押し流され，17 人が死亡し 6 人が行方不明となった。ぜひ，犠牲者の冥福を祈り黙祷を捧げたい。

さて，新湯沢の徒渉だが，晴天時は極力水のないところを歩くようにする。雨の日や増水時はいっそう足元に注意が必要である。特に転倒して滑落すると，沢の岩の落差で思わぬケガをする恐れがあるので十分に注意して徒渉したい。同時に赤布などの目印を見落とさないようにしよう。特に両岸に渡されているロープのエリアから先には立ち入らない方が賢明である。

沢を越えて灌木帯を越えると，砂礫，ハイマツと景色が変わり，周囲が一気に開けてくる。ここまで来ると東栗駒山頂が見えてくるので，ハイマツ・ガンコウラン・コケモモ等が広がる東栗駒山の山頂で小休止を取ろう。ケルンに鐘が設置されているので，栗駒山山頂を見ながらその景色に酔いしれつつ鐘をひとつ鳴らすのも一興である。ただし強風時の東栗駒山は遮るものが何もないので，吹きさらしになる。カッパを重ね着するなどして低体温症にならないよう，十分気をつけたい。東栗駒山から栗駒山を望み，その下に広がるのは先ほど徒渉した新湯沢の源頭部である。

東栗駒山を過ぎたら，もう一つ小ピークがある。それを越えてコースは次第に西に針路を変え，中央コースに合流する。コース整備された階段に差しかかれば，中央コースとの分岐点はもうすぐである。歩幅と階段の幅が合わなくて難儀するかも知れないが，踏ん張りどころである。

中央コースに合流したら右手に進もう。すると，最後のだめ押しの階段が現れてくる。ゴロゴロする足元の岩に十分注意し，また下山者も多いのですれ違いに気を付け，たまに左手の眼下に広がる景色を楽しもう。その景色の美しさが，きっと山頂まで頑張ろうという気持ちを奮い立たせてくれるはずである。

（C）湯浜コース

登山口～＜60分＞～古道の森分岐～＜150分＞～虚空蔵山十字路～＜70分＞～須川・秣岳コース分岐（天狗平）～＜25分＞山頂（約8.5km，約5時間）

湯浜温泉は，町から遠く離れた山中に建つ，ただ1軒の宿である。宮城・秋田の県境より３ｋｍほど宮城県側に入った所に駐車場があり，ここから一迫川の上流で母沢と名を変える沢を渡り，左岸を３００ｍほど行くと『ランプの宿』湯浜温泉（三浦旅館）に着く。冬期間を除き，宿のご主人が登山者を温かく迎えてくれる。

登山コースは温泉の前を通り過ぎた所から急登で始まるが，登山口の神社で「無事登れますように」と祈ろう。苦しい登りは１０分ほどで終わり，その後はほとんど急な登りはない。

急登を過ぎると，ブナの美林が標高１０００ｍ付近まで続く健脚向きのコースだ。風通しが悪いので，季節によってはこまめに水分の補給が必要なコースでもある。

１０月はブナの葉も紅葉し，登山者の目を楽しませてくれる。登山道は特別歩きにくいわけではないが，道の真ん中に動物の落し物も時々あり，足元にも注意しながら歩きたい。

途中，白桧沢（しらひざわ）を渡り，古道の森分岐を左に折れ，相ノ沢に沿って北上する。相ノ沢の源頭部から右斜め前方の虚空蔵山を目指すように進む。ブナの林が終わり，丸みを帯びた虚空蔵山が右手に見えてくると，小桧川源頭の草原に出る。途中，お花畑の中を歩くが，木道ならぬプラスチック板の道が歩きにくい。

この時期，高山植物の花期は終わっているが，その代わりに草紅葉が楽しめる。花の百名山とも言われる栗駒山は，６～７月が最も多く高山植物の花を楽しめる時期である。

滑りやすい道をたどりながら虚空蔵山の左側を巻くように歩くと，虚空蔵山の北側の鞍部の位置するＴ字路に着く。ここが湯浜道分岐で，直進すると，表掛コースに至る。ここから左にルートを変え，湯浜コースに入る。

御室の上を通り，栗駒山の山頂に向かう。灌木とハイマツのこの　付近は「松波八里」とも呼ばれ，途中から御室と栗駒本峰が一望できる。

御室からの表掛コースが右から合わさり，４０分ほどで須川分岐に出る。振り返れば，良き眺め。歩いてきた道を思い，ここで一息つこう。もうすぐ山頂だ。

（D）裏掛コース

登山口～＜15分＞～新湯沢～＜90分＞～天狗の碁盤石～＜45分＞～磐井川源流（笊森分岐）～＜40分＞～東栗駒コース分岐～＜15分＞～中央コース分岐～＜7分＞～山頂（約6km，約3時間30分）

裏掛コースは，古来信仰の道として使われてきた登山道で，表掛コースから山頂を経て裏掛コースを

下って駒ノ湯に至るのが，信仰としての栗駒山登山だったようである。

一方，このコースは，平成 20 年（2008 年）の岩手・宮城内陸地震により栗駒山の大規模な山体崩壊が発生した場所の一つを通るコースである。

「栗駒いこいの村」跡地向かいの空き地から入山，整備された林道を新湯沢まで下る。この新湯沢は，岩手・宮城内陸地震により源頭部付近で山体崩壊が起こり，大規模な土石流が発生した沢である。土石流は渡渉点から約２km 下流にあった駒ノ湯温泉を飲み込み，20 人以上の犠牲者を出すという痛ましい災害があった。

さて，沢には橋が架かっていないので，安全な場所を探して慎重に徒渉したい。

ここからブナ林の中の急な登り坂が続き，苔の生えた石段など神殿のような雰囲気が漂う。一時間ほど登るとブナの切れ間から南側の展望が開け，いわかがみ平や遠くに文字（もんじ）山が望まれる。開けた草付きのお花畑を過ぎれば急な登りは終わりとなり，ドゾウ沢の源頭部が見える。

天狗の碁盤石の手前から内陸地震の崩落起点部をトラバースする。足場も悪く迷いやすいので十分注意を払おう。崩落箇所を過ぎると草原が広がる。ここは残雪の恩恵を受け，夏でも春の高山植物の花々が楽しめるポイントだ。

草原と幾つかの小沢を超えると灌木帯に入り，産女川（うぶすめがわ）の源頭部と笊森が見えて来る。まもなく笊森コースと須川自然散策路が合流した磐井川源頭部の分岐に出る。ここから笊森避難小屋に行くには 600m ほど下る。今回のコースからちょっと離れているが，覚えておきたい場所だ。

分岐を左に折れて沢沿いに登ると，東栗駒山コースの分岐に出る。ここから望む栗駒山はすばらしく，このコースのお勧めポイントだ。山頂までは良く整備された階段が続く。痛んだボルトなどが顔を出しているところもあるので，つまずかないようにしよう。

※下山は中央コースとなるが，機会があれば東栗駒山コースを下山することもお勧めしたい。

（E）須川コース

登山口～＜20 分＞～名残ヶ原～＜30 分＞～昭和湖～＜40 分＞～表掛・秣岳コース分岐（天狗平手前）～＜25 分＞山頂（約 4km，約 2 時間）

須川温泉は湯治場として１１００年の歴史を持っているが，その須川温泉をベースに登るコースある。岩手県側からのもっともポピュラーなコースで，名残ヶ原の湿原，エメラルドグリーンに輝く昭和湖，そしてハイマツ帯と，変化に富んでいるコースでもある。

須川温泉からは縦横に散策路が設けられている。登山道はその散策路から始まり，どの道からでも名残ヶ原に出る。ここがお花畑と呼ばれている広大な湿原で，初夏にはワタスゲ・モウセンゴケ・イワイチョウ・イワカガミなどが可憐に咲くところである。

途中，賽の河原に至る分岐がある。今回は直進するが右に折れて，西側に木道を 500mほど行くと周辺の景観は一変し，岩峰が目の前にドーンとそびえ立っている。ウラジロヨウラク・ササラドウダンなどの灌木の中に溶岩がゴロゴロと点在し，天然の庭園のようである。紅葉時期には岩峰と紅葉のコントラストがすばらしい景観を作り出す。足を延ばしてみる価値はあるところだ。

湿原の木道を過ぎると低木林になる。自然観察路を左に分け，昭和湖から流れてくるゼッタ沢を渡り，硫化水素の蒸気噴出によって裸地になった涸沢を左に見ながら１０分ほど登ると昭和湖に出る。ここまでは須川温泉の湯治客もよく登ってきており，弁当を広げたりするのどかな湖畔である。昭和 19 年の小爆発によりできた火口湖周辺は，７月上旬には見事なイワカガミの群落を見ることができる。

昭和湖から左手の急な尾根道を登ると，オノエランが多いところがある。やがて，背の低い灌木帯となり，県境主稜線上の十字路をなす表掛・秣岳コース分岐に着く。

右は秣岳へと続き，直進すると宮城側の御沢・大地森・湯浜のそれぞれのコースへと続く。山頂へは左手の馬の背へと向かう。歩きやすい尾根である。目前に，下方から見上げると天狗の横顔そっくりの天狗岩がある。天狗岩からの展望は，天気がよければ，鳥海山・焼石連峰・岩手山・早池峰山などの山々を見渡すことができる。

この稜線は，小灌木の中にハイマツの混ざる気分のよい道で，夏の午後，南東側の大日沢から吹き上げるガスに，しばしばブロッケン現象が見ることができる。６月下旬には，ミツバオオレンの白い可憐な花の道が続く。稜線からの眺めは，秋の紅葉も圧巻である。ほどなく，山頂に到着する。

（F）天馬尾根（秣岳･皆瀬）コース

登山口～＜80 分＞～秣岳～＜60 分＞～白銀湿原（鞍部）（1333m地点）～＜60 分＞～岩頭（1573m地点）～＜10 分＞～表掛・須川コース分岐（天狗平手前）～＜25 分＞～山頂（約 6km，約 4 時間）

車道沿いの登山道入口には案内板があるので，迷うことはない。歩き始めは道幅が広く快適に歩ける。15 分ほど歩くと急斜面につづら折りの登山道になる。呼吸を整えながらゆっくりと登る。雰囲気の良いブナ林の中を歩くが，登山道にはブナの木の根が多く出ている。滑ったり，つまずいたりしないように，またブナの根を傷つけないように注意して歩こう。

約 1220m地点から次第に斜度は緩み，斜面をトラバースしながら歩いてゆくと，目の前に秣岳を見ることができる。非常に展望の良い場所なので，ここでは是非とも休憩したい。展望所から先は不安定な岩場のトラバースになる。浮石・落石に注意しよう。雨天時はさらに滑りやすくなるので要注意だ。

岩場のトラバースを抜けると，秣岳コースの主稜線（約 1300m）にたどり着く。ここから秣岳までは再び急坂になるので，ペースを維持しながら登ろう。たまに後ろを振り返ると鳥海山が見える。そして，ほどなく秣岳だ。先は長いので，ここでは小休止程度にして歩きを進める。

秣岳から少し下ると木道になる。登山道は少し狭くなり，サラサドウダン街道を抜けると巨岩の展望

所に着く。ここから秣岳コース最大のビュースポットしろがね草原をご覧いただきたい。気持ちの良いしろがね草原の中を歩いて行くと 1333mの鞍部に着く。この先は一時間位の登りになるので，しっかりと小休止を入れたい。水分・栄養補給も忘れずに。長い登りでは，ゆっくりと呼吸を整えながら行こう。後ろを振り返ると，歩いてきた秣岳からの主稜線全景を見ることができる。

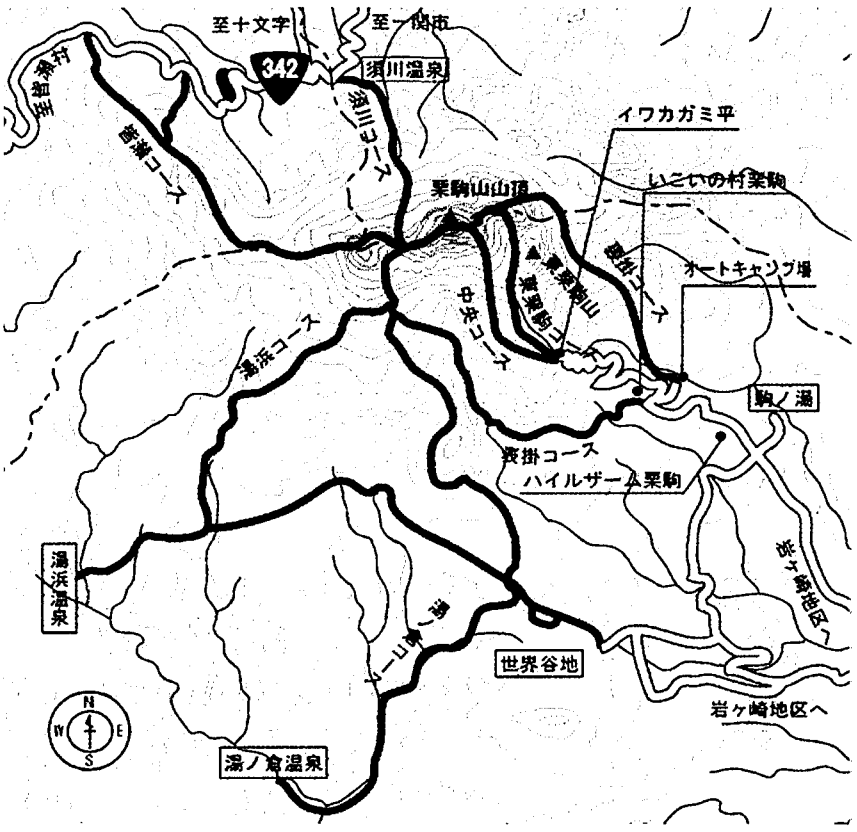
1573mピーク。長い登りはここまで。ピークの手前が三県の県境になっている。展望が素晴らしいポイントなので，条件が良ければここでゆっくりとお昼ご飯にしたいものだ。ここから約 30 分で栗駒山頂に着く。山頂の手前が天狗平で，須川コース・湯浜コースとの合流があり，紅葉がピークの時期は大変な混雑も予想される。すれ違いや待機など，声がけしながら仲良く安全第一で行こう。東北随一の紅葉と称される栗駒山なので，山頂もたくさんの登山者で賑わっていることと思われる。東北が誇る素晴らしい景観を心ゆくまでご堪能あれ。

※天馬尾根コースの登山口には路肩に数台分の駐車スペースしかないため，須川湖駐車場または須川温泉駐車場で身支度(トイレ・準備体操等)を整えてから登山口に向かうこと。

下山コース（中央コース）

山頂～＜10 分＞～東栗駒コース分岐～＜15 分＞～標高点（1408m）～＜50 分＞～いわかがみ平（約 3km，約 1 時間 15 分）

帰りは標高差 500mの中央コースを下る。山頂からの階段を下ると次第にハイマツ帯にさしかかり，標高点にさしかかる。標高点からは灌木帯を下り，程なくしてコンクリートと玉石が敷き詰められたコースとなる。石畳などで整備された登山入門者向けの登山道だが，近年は大雨による浸食が進み荒れている箇所もあるので十分注意して下ろう。最後のこの敷き詰められたコースが意外に足にこたえるので，最後まで気を抜かずに歩ききろう。一時間ちょっと下ると，いわかがみ平に到着する。



注：皆瀬コース→天馬尾根コース

※地図提供：栗駒鷲沢商工会（H27.6.1）

名鉄観光サービス㈱仙台支店
〒９８０－００２１仙台市青葉区中央4-10-3
住友生命仙台ビル６階
TEL０２２（２２７）３６１１
FAX０２２（２６１）４６２３
担当者　植松・遊佐・村上

被災地視察ツアーのご案内

Aコース『南三陸復興応援コース』（南三陸町と気仙沼市の視察）

日次	月日(曜)	行程
1	平成２７年 10月11日 (日)	ホテル＝＝南三陸志津川町被災地視察＝＝＝ ８：００発　(町内～防災庁舎跡地～浸水エリア等) ＝＝＝＝＝南三陸ホテル観洋＝＝＝＝＝気仙沼海の市＝＝＝＝＝ (昼食) ＝＝＝くりこま高原駅＝＝＝栗原市みちのく伝創館 １５：３０頃　１６：００頃

お一人様8,500円	(旅行条件) ＊募集人員40名　最少催行人数25名 添乗員同行　昼食１回　案内ガイド同行

Bコース『栗駒ジオパークコース』（栗原市の視察と復興支援）

日次	月日(曜)	行程
1	平成２７年 10月11日 (日)	ホテル＝＝藍染湖ふれあい公園＝＝荒砥沢地すべり＝＝＝＝ ８：３０発 ＝＝＝冷沢大崩落地＝＝＝＝＝＝＝山脈ハウス＝＝＝＝ (昼食) ＝＝＝栗原市みちのく伝創館＝＝＝くりこま高原駅 １３：００頃　１３：３０頃

お一人様6,500円	(旅行条件) ＊募集人員40名　最少催行人数25名 添乗員同行　昼食１回　案内ガイド同行

送付先 FAX 022－261－4623（送信書不要）

新規 変更 追加 取消

第54回全日本登山体育大会参加申込書

申込日　　月　　日

申込締切日　　8月7日（金）

記載責任者名 （参加者代表）		役職		所属山岳会名称
住所 （書類送付先）	〒　　－			TEL ： FAX ： 携帯 ：

No.	氏名	住所	性別	年齢	生年月日	希望コース ※①		来県交通手段 ※②	無料送迎バス	OP観光	交通手段手配 ※③
例	宮城（ミヤギ） 太朗（タロウ）	〒980－0021 宮城県仙台市青葉区中央4-10-3	男	45	S　H 45年8月18日	第一希望 第二希望 第三希望	A B C	車 ・ JR 高速バス ・ 航空機	○印を 11:20 12:10	A	要・不要
1	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望		車 ・ JR 高速バス ・ 航空機	○印を 11:20 12:10		要・不要
2	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望		車 ・ JR 高速バス ・ 航空機	○印を 11:20 12:10		要・不要
3	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望		車 ・ JR 高速バス ・ 航空機	○印を 11:20 12:10		要・不要
4	フリガナ					第一希望 第二希望 第三希望		車 ・ JR 高速バス ・ 航空機	○印を 11:20 12:10		要・不要

備考欄

※①必ず第三希望までご記入ください。
※②宮城県への利用交通手段に○印をお付け下さい。
※③航空機・高速バス等、別途手配ご希望の方は○印をお付け下さい。当社よりご連絡させていただきます。

※変更・取消をご希望の場合も本用紙にその内容をご記入の上、郵送またはFAXにてご連絡ください。
※お電話でのお申込・変更・取消は出来かねますので、ご了承ください。
※ご記入いただいた個人情報は、大会参加手続き及びご旅行の手配業務のためのみに使用いたします。

【お申込・お問合せ先】

名鉄観光サービス株式会社仙台支店

住所　宮城県仙台市青葉区中央4-10-3（住友生命仙台ビル6階）
TEL：022-227-3611　FAX：022-261-4623
担当　植松・遊佐・村上

裏面

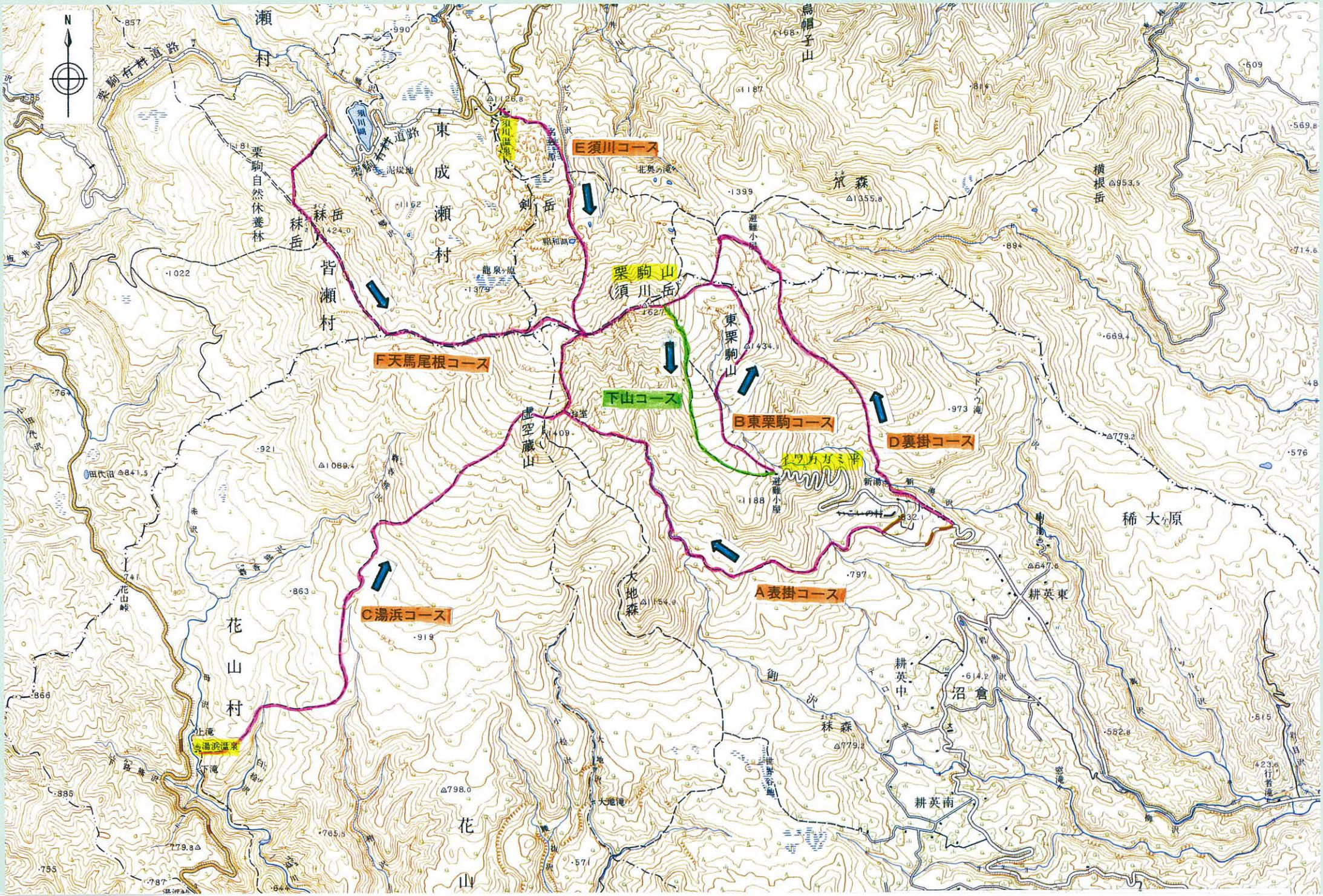
第54回全日本登山体育大会　参加費等振込み明細書

名鉄観光サービス㈱仙台支店行き

振込控え添付欄

振込明細欄			
項目	単価	数	合計
参加費	33,000		
		振込金額	

領収書発行依頼書	
宛名	
金額	
但し書き	
送付先	〒
宛名(2)	
金額(2)	
但し書き(2)	
送付先(2)	〒



使用地図：国土地理院１／５万地形図　栗駒山・秋ノ宮